

# 事業実施報告

開催日	令和5年7月29日（土）～30日（日）		
事業名	ふるさといわてと出会う夏 曲り家フェスタ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	20家族57名
対象	小学校1～3年生を含む家族		
関係機関名	岩手県立博物館、Earth Building Iwate		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

### 〔事業の内容〕

小学生1～3年生を含む家族を対象に1泊2日で実施し、当日は20家族57名が参加した。一日目にはわらべうたレクリエーション、南部せんべい焼き・せんべい汁づくり、曲り家ファミリータイムの3つのプログラムを実施し、二日目は、茅場さんぼ、曲り家ワークショップを実施した。

わらべうたレクリエーションは岩手県内でわらべうたや読み聞かせの活動をしている野坂純子先生を講師に迎え、家族の枠を越え参加者全員で楽しく交流をした。南部せんべい焼きは、野外炊事場で実施し、親子で火を起し、せんべい生地を捏ね、かまどで焼く工程を体験した。出来上がったせんべいは夜ご飯のせんべい汁としても使い、岩手県の食文化に触れた。

夜の曲り家で実施した曲り家ファミリータイムは、岩手県立博物館主任学芸員の近藤良子先生が講師となり、南部曲り家の歴史や昔の衣服、道具をクイズ形式で学び、照明器具などの実物資料を手にとって体験した。また、囲炉裏を用いて、鉄瓶で沸かしたお湯を飲んだ。

二日目は、茅葺屋根職人の磯和亮治先生を講師に招き、所内の茅場見学と茅刈り体験をした。その後の曲り家ワークショップでは、茅を用いたコースターとミニ茅掛け軸を作った。

### 〔成果〕

・南部曲り家を拠点に岩手の文化・歴史を学び、夜の古民家体験や昔の衣服、道具に触れたことで昔の人の暮らしを実体験していただくことができた。

・実際に生えている青々とした葦と、茅葺屋根に使われる茅を手に取り、その特徴や活用について学び、自然環境の保全、生物多様性などSDGsの観点を含めた茅文化を身近に感じていただくことができた。

・岩手の伝統・文化を担う3名の講師を招き、施設内の資源を活用することで、郷土の衣食住、歴史文化、持続可能性という学びのテーマと体験を結び付けて提供することができた。

・事業後のアンケートでは、事業全体に関する満足度について、「満足」「やや満足」の評価が100%であった。感想では「参加者みんなと交流できて楽しかった」「夜の曲り家の雰囲気を実験できてよかった」「親子でゆっくり学ぶことができた」との声が寄せられた。

### 〔課題〕

・プログラムが詰まって入浴や移動時間などに余裕がなかった部分があったため、ゆとりのあるプログラム作りに努める。

・茅の創作活動では、作業が細かく、小学校低学年の子どもの中には難しい様子が見られた。対象年齢を上げるなど、発達段階を考慮しつつ、企画立案したい。

・期間中猛暑に見舞われ、冷房器具もない中の活動となった。秋に時期をずらして実施することも検討する。

・南部曲り家が老朽化の影響で宿泊などに対応できない状況にある。屋根の葺き替え作業を控えているため、来年度以降はより茅文化の学びに力を入れて実施していきたい。

## 状況写真



わらべうたレクリエーション



南部せんべい焼きの様子



曲り家ファミリータイム



茅場さんぼ



曲り家ワークショップ